生成AIを使ったプロジェクトマネジメントとドキュメント実例集【会場】（4126290）

― プロジェクトの「最初の30日」に何を決めるか。 計画づくりから要件定義までを演習で体験する1日講座（テンプレート43点つき）― 本講座では、プロジェクトを「不確実な状態から必要な意思決定を重ね、実行可能な状態へ変えていく活動」と捉えます。計画づくりから要件定義までに何を、いつ、どの粒度で決めるべきかを、成果物の全体像と仮想プロジェクト演習を通じて学びます。

開催日時	2027年3月18日(木) 10:00-17:00会場
JUAS研修分類	プロジェクトマネジメント(プロジェクトマネジメント)
カテゴリー	IS戦略実行マネジメント・プロジェクトマネジメント 専門スキル
講師	人見悠大 氏 （株式会社クリエイティブテックスタジオ　代表取締役 PMP ） シンプレクス株式会社にて金融機関向けシステム開発に従事し、社内最年少でプロジェクトマネージャーに就任。 担当した全プロジェクトで品質・コスト・納期の未達ゼロを達成した。独立後は、ユーザー企業のIT戦略部門にCIO補佐として参画する一方、受託開発を行う企業の代表として発注側・受注側の双方を実務で経験している。 東証プライム上場企業の教育研修・エンタープライズPMO支援、年商1,700億円規模のSIerにおけるPM育成プログラムの設計・運用などを担当。 東京理科大学のPMP講座講師、iU 情報経営イノベーション専門職大学の客員講師を務める。 YouTubeチャンネル「プロジェクトマネジメントの教室」でPM実務を発信。週刊エコノミスト2025年3月11日号掲載。
参加費	JUAS会員企業/ITC：35,200円 一般：45,100円（１名様あたり　消費税込み、テキスト込み）【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（NBF東銀座スクエア２F）
対象	・特定の開発方法論、業界知識、生成AIの利用経験は問いません。 ・PCをご持参ください。演習で生成AI（ChatGPT、Gemini、Claude、Copilotのいずれか。無料プランで足ります）を使います。社内規定などで利用できない方や、PCをお持ちでない方は、講師が用意した出力例を使って同じ演習に参加いただけます。 ・会社の機密情報や個人情報は演習に使用しません。 初級
開催形式	講義、グループ演習
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。（2時間1ポイント）
特記	・特定の開発方法論、業界知識、生成AIの利用経験は問いません。 ・PCをご持参ください。演習で生成AI（ChatGPT、Gemini、Claude、Copilotのいずれか。無料プランで足ります）を使います。 社内規定などで利用できない方や、PCをお持ちでない方は、講師が用意した出力例を使って同じ演習に参加いただけます。 ・会社の機密情報や個人情報は演習に使用しません。
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態
会場のみ（オンラインなし）
■テキスト
当日配布
■開催日までの課題事項
PCをご持参ください。演習で生成AI（ChatGPT、Gemini、Claude、Copilotのいずれか。無料プランで足ります）を使います。
社内規定などで利用できない方や、PCをお持ちでない方は、講師が用意した出力例を使って同じ演習に参加いただけます。

生成AIを使ったプロジェクトマネジメントとドキュメント実例集
― プロジェクトの「最初の30日」に何を決めるか。

計画づくりから要件定義までを演習で体験する1日講座（テンプレート43点つき）ー

【この講座で持ち帰れるもの】
・計画づくりから要件定義までの「成果物の全体像」。何を、いつ、どの粒度で決めるかがわかる
・要求を分類して対応方針を決め、要件定義を「終わった」と言える状態までまとめる型
・生成AIへの指示の型と、チームのAI利用を揃える「AIへの指示書」（AGENTS.md など）の雛形。翌日から自社のプロジェクトで使える

【こんな方に】
・PMを任されているが体系的に学んだことがなく、自分のやり方が合っているか不安な方
・これからPM・PMOを担う方。用語（PMBOK、要件定義）から押さえたい方
・委託先から出てくる計画書や要件定義書を評価する立場の方
・プロジェクトメンバーの生成AI利用を、どう統制すればよいか決めかねている方

【当日の特徴】
・講義と演習がおよそ半々。中堅食品卸の基幹システム刷新を題材に、グループで「最初の30日」を設計する
・PCと無料の生成AIを使って、要求一覧を実際に作り比べる（使えない方には出力例を配布）
・配布物: 成果物テンプレート43点（記載例つき）、成果物の全体像、ワークシート、AIへの指示書の雛形、スライドPDF
・講師は発注側（ユーザー企業のIT戦略部門）と受注側の双方を実務で経験

本講座では、プロジェクトを「不確実な状態から必要な意思決定を重ね、実行可能な状態へ変えていく活動」と捉えます。計画づくりから要件定義までに何を、いつ、どの粒度で決めるべきかを、成果物の全体像と仮想プロジェクト演習を通じて学びます。
成果物の選択や順序、会社固有の制約への対応は人が判断し、個々の成果物の作成・整理・レビューには生成AIを活用します。生成AIに判断を委ねる講座ではなく、プロジェクトマネジメントの型を身につけたうえで、AIを実務に組み込む方法と、プロジェクトメンバーのAI利用を揃える方法を扱います。

【主な内容】
第1章 プロジェクトはなぜ失敗するのか
1-1 プロジェクトの定義 ー 独自性と有期性。だから本質的に難しい（PMBOKガイド）
1-2 プロジェクトマネージャーの仕事 ー 計画・実行・モニタリング・修正
1-3 データで見る失敗の現在地 ー JUAS「企業IT動向調査2026」の「計画時の考慮不足」
1-4 不確実性を下げるのは意思決定
1-5 失敗の型3つ ー 決める順序の誤り／受入基準の欠如／議論の粒度のずれ（実例つき）
1-6 ミニワーク: 自分の現場で起こっている問題はなにか

第2章 計画づくりから要件定義までに何を決めるか
2-1 システム開発の5つのステップ ー 工程と1対1ではない
2-2 成果物の全体像ー 企画・発注前・要件定義・設計の各工程で、どの成果物を作成するか
2-3 要求定義のやり方
2-4 記載例 ー 要求一覧、業務フローー、機能一覧、外部IF一覧
2-5 要件定義の完了定義とは
2-6 プロジェクトマネジメント計画系の成果物 ー 計画書・WBS・課題／リスク管理表
2-7 ミニ演習: 4件の要求を分類と対応方針に振り分ける

第3章 【演習】最初の30日を設計する
3-1 仮想プロジェクト
3-2 計画で決めること
3-3 グループ演習
3-4 発表と講評

第4章 人が決めて、生成AIで作る
4-1 生成AIはPMの新しい管理対象
4-2 人が決めること／AIに任せる作業
4-3 出力の質を決める4要素
4-4 すぐ使えるコツ
4-5 チームのAI利用を揃える

第5章 【演習】要求一覧を生成AIで作り比べる

5-1 曖昧な指示で作る
5-2 4要素を与えた指示で作り直す
5-3 発表 ― 自分の現場用の指示文に書き換える

【受講にあたり】
・特定の開発方法論、業界知識、生成AIの利用経験は問いません。
・ PCをご持参ください。演習で生成AI（ChatGPT、Gemini、Claude、Copilotのいずれか。無料プランで足ります）を使います。
社内規定などで利用できない方や、PCをお持ちでない方は、講師が用意した出力例を使って同じ演習に参加いただけます。
・会社の機密情報や個人情報は演習に使用しません。